

第 109 回 ASC セミナー 日本アフリカ学会 関東支部 共催

『アフリカの G20 か、 それともアフリカで開催された G20 か—— 南アフリカの G20 議長国に関する概観』

【講演者】タワンダ・サチコニェ博士

(南部アフリカ・リエゾン・オフィス研究コンサルタント)

ケープタウン大学で政治学の博士号取得。外交政策の専門家及び国際関係の研究者として、南アフリカの貿易と経済外交、南アフリカとジンバブウェの関係、南部アフリカ地域及びアフリカ大陸における南アフリカの役割、国連安全保障理事会における南アフリカの取り組みに関する研究を実施。南アフリカの外交政策提言に関する市民社会の活動に 13 年間従事した経験も持つ。

【要旨】

本報告の目的は、南アフリカの 2025 年 G20 議長国としての取り組みについて、洞察力に富んだ包括的な概観を示すことである。南アフリカの G20 議長国就任は、1999 年の創設以来初めて、アフリカの国が同フォーラムの議長国を務めるという、歴史的で画期的な出来事だった。特に重点を置くのは、G20 議長国南アフリカがどの程度「アフリカの」な G20 を実現したかについての評価である。この点に関連して、アフリカ連合 (AU) が G20 の正式な一員として最近加盟したことは注目に値する。さらに、南アフリカの G20 議長国の任期は、グローバルサウスの国々が G20 を主導した、波乱に満ちたサイクルの終焉を意味する。この期間、インドネシア (2022 年議長国)、インド (2023 年議長国)、ブラジル (2024 年議長国) が、グローバルな経済ガバナンスと金融機関への途上国の更なる包摂と代表性の強化を強く提唱してきた。

本報告ではさらに、困難な国際情勢のなかで、南アフリカがアフリカの「開発アジェンダ」を提唱すると同時に、より広範なサウス-サウス及びノース-サウス (日本と南アフリカの協力強化を含む) の多国間協力を強化しようとしてきた経緯を探る。

最終的には、南アフリカの G20 議長国としての遺産が次の諸点においてどのようなものとなるかを評価することを試みる：

- ◆グローバル経済ガバナンスの場での AU の声の増幅
- ◆深刻化し、持続不可能なアフリカの債務問題に対する適切な解決策の提示
- ◆アフリカの人的資本ニーズを G20 の今後の議題に確実に位置づけること
- ◆課題 (次期議長国アメリカが南アフリカの主導する G20 に反対した経緯を含む)
- ◆一般のアフリカ市民による、南アフリカの歴史的な G20 議長国に対する認識

キーワード：南アフリカ、G20 議長国、アフリカの、アフリカ連合、債務、人的資本、グローバル経済ガバナンス、多国間協力

言語：英語 参加費：無料

事前登録こちら



2025
12/17(水)

5 : 40 p.m. ~

7 : 10 p.m. (日本時間)

場所：【Hybrid】

Online: Zoom

Onsite: 103 教室

(東京外国語大学 研究講義棟 1F/
府中キャンパス)



現代アフリカ地域研究センター
African Studies Center-TUFS

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 (研究講義棟 4 階 401E-2 号室)
3-11-1 Asahicho, Fuchu, Tokyo 183-8534 Japan
(Room 401E-2, Research and Lecture Bldg.)
Email: asc@tufts.ac.jp